

7 抗酸化サプリメント治療で、精子 DNA 断片化指数が改善しない男性不妊症患者への漢方薬追加治療の効果について

獨協医科大学埼玉医療センター 国際リプロダクションセンター¹⁾、
獨協医科大学埼玉医療センター 泌尿器科²⁾、
つばきウィメンズクリニック³⁾

岡田 弘^{1) 2)}、岩端 威之²⁾、辻岡 博貴²⁾、
長谷川 金太郎²⁾、杉江 美穂²⁾、大坂 晃由²⁾、
齋藤 一隆²⁾、鍋田 基生³⁾、杉本 公平¹⁾

【背景と目的】

男性不妊症の原因が、精子DNA断片化指数(sDFI: sperm DNA fragmentation Index)が上昇しているため(精子の質の低下のため)に、受精障害や良好胚盤胞到達率の低下や初期流産率の増加をきたす事が明らかになってきている。sDFI高値症例に対しては、抗酸化力のあるサプリメントが使用されることが多いが、治療後にsDFIが十分に低下しない症例を経験することがある。

これらの症例に対しての、追加治療としての補中益気湯の有用性を検討した。

【対象と方法】

抗酸化サプリメント療法を3-4か月間継続してもsDFI値が改善しないoligoasthenoteratozoospermia 28症例にたいして、補中益気湯3包/日を6か月間上乘せ処方した。19例は精索静脈瘤なし、5例はGrade IIの左精索静脈瘤4例はGrade IIIの精索静脈瘤
この間に、一般精液検査所見の推移とsDFI値の変化を比較検討した(前値・3か月・6か月時点)。

有用性の統計解析は、Wilcoxon signed-rank testでおこなった。

【結果】

一般精液検査の推移

精液量 1.8 ± 1.4 ml; 1.7 ± 1.3 ml; 1.8 ± 1.6 ml

精子濃度 $11.3 \pm 12.5 \times 10^6$ /ml; $14.2 \pm 8.4 \times 10^6$ /ml; $15.5 \pm 9.4 \times 10^6$ /ml

精子運動率 32.2 ± 11.6 %; 38.8 ± 12.4 %; 35.6 ± 12.7 %

正常形態精子率 2.2 ± 1.7 %; 1.7 ± 1.5 %; 2.1 ± 1.1 %

sDFI 23.4 ± 8.7 %; 18.8 ± 6.7 %; 14.3 ± 4.2 % ($P < 0.05$)

【考察】

抗酸化療法でsDFI値が改善しない症例では、補中益気湯の追加治療が有用である。現在、妊娠経過について経過観察中である。